

B-76 縫製の筋電図学的研究（第Ⅲ報）
装身性に及ぼす縫合の技術について

愛知淑徳短大 神谷い代子
○山田 稔子
宝田 年世
古田 幸子
柿原 朋子
小林 毬子

1. 運針技能の習熟を科学的に解明し、それに基づいた適切な指導方法を見出すべく、研究を重ねて来たが、今回は和服構成に当って、長期間着用後も尚、装身性を保持出来る様な布の縫合法を検討し、その技術を工夫すべく前回同様主に神経生理学的な立場より実験を試みた。

2. 被検者は運針技能の高い者と低い者数名とし、試験布としては純綿および混用の市販の和服地数種を用い、二重、三重、四重縫に供した。その成果については、運針時、関与筋の中の上肢筋の筋電図記録および上肢の主動ポイントの運動軌跡、運針所要時間等より考察し、縫目の成果の手がかりとしては、縫製後の布のずれを測定し、布を重ねて運針した場合待針の果す役割をその間隔を規定する事によって併せ検討を加えてみた。

3. 運針技能の高い者において、掛針を使用した場合、筋電図記録より考察するとかなりの個人差が認められ、使用しない場合より上肢筋の筋電図の増高が目立つ場合も認められた。また布を重ねて縫った場合、掛針使用時において、表目、裏目縫製時の張力の加わり方に差異が認められた。